

は じ め に

全国知的障害養護学校 PTA 連合会会長

中 村 文 子

昨年4月より、いよいよ学校週五日制が完全実施となりました。以前より増えた休日にゆとりができたとおっしゃる方、課題の無い時間の増加に負担を感じられている方、各家庭の反応はさまざまでしょうが、地域の中に戻って過ごす時間が増えたということには変わりはありません。

又、10月末には「特別支援教育の在り方について」の中間報告が調査研究協力者会議より出されました。その中で、これからの特別支援教育の形は、教育・福祉・労働等が横の連携をしっかりと取った、乳幼児期から卒後まで一貫した流れを持つ地域密着型のものになっていくのが望ましいと述べられています。

そして、この4月からはいよいよ支援費制度が実施されます。この福祉制度の中では、地域の中の資源を自分自身で選択し組み立てていくことを、保護者・本人一緒に考えていかなければなりません。まさしくこれからの私たちにとって、「地域の中で生きていく」という言葉はキーワードとってよいのではないのでしょうか。

このような時期に、文部科学省をはじめとする関係機関のご協力をいただき、平成14年度社会福祉・医療事業団から助成を受け「児童・生徒の地域活動を充実するためのセミナー」を実施することができましたことに心より感謝申し上げます。

全国10校の実施校の皆様には、その地域の状態に合わせさまざまな内容を織り込んだセミナーを実施していただき、そのために大変なご努力をいただきました。そしてたくさんの方にご参加いただき、そこで情報や意見の交換が活発に行われたことを本当に嬉しく感じています。

知的障害という個性を持つ児童・生徒達が、地域の中に自由に出かけていき楽しんでくことは、まだまだ難しい面があると思います。しかし楽しめる場所や関わってくださる方が少しずつ増えていくことで、ハードルの高さは低くなっていくに違いありません。そしてそんな気持ちをお持ちの方や、そのために力を注いでおられる方はたくさんいらっしゃることでしょう。そんな方々がそれぞれの活動の様子や今抱えている悩みを交換しあうことで、活動の広がりや中身の濃さは増していくのではないのでしょうか。

このセミナーが、そのための情報提供の場として少しでも役に立てたのならこんな嬉しいことはありません。そして来年度、この事業が又ひとつ新しい展開を見せ、地域活動の輪が全国に広がっていくことを心から願っております。